



# frame フレーム

「移動」から「活動」のための歩行空間の計画

発案者：伊藤翼 宇田葉月 出口優樹

## concept 私たちの考え方

そもそも人はどうして道を歩かなくなってしまったのでしょうか？

かつて、人は移動だけではなく、休息を取りたり、食事をしたり、生活が屋外にあふれ、活動の場となっていました。

しかし、車社会の到来とともに車道が整備され、道の大半が車のための場所になってしまいました。

防犯意識も相まって、生活は家の中に入じ込められ、道は家から目的地までの移動のための場所になってしまいました。

そんな道において車による移動が多くなることは不思議なことではありません。

そんな道、歩道はどうすれば、歩いてもらえるようになるでしょうか？  
歩くしきけはどのようにつくるべきでしょうか？

私たちは移動に特化してしまった道を生活の場としての道にすることで  
おのずと歩行者が増えるのではないかと考えました。

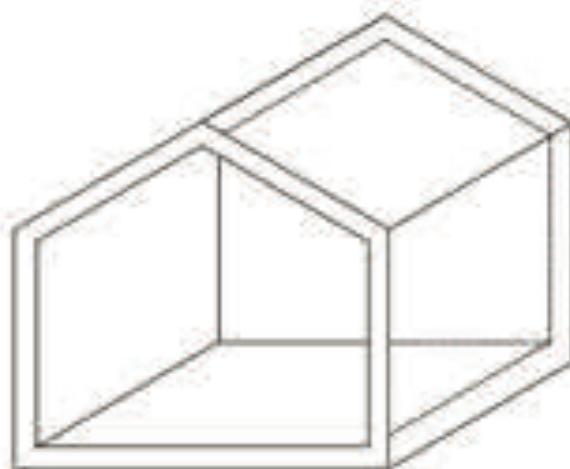
では、どうすれば人は道を生活の場とすることができますでしょうか？

生活の場所といわれて真っ先に思い浮かぶのが家です。  
しかし、家だから生活が可能というわけではありません。

窓の中には食事をするための椅子とテーブルがあり、寝るための布団があったり、  
その活動を可能にする「窓具」があります。

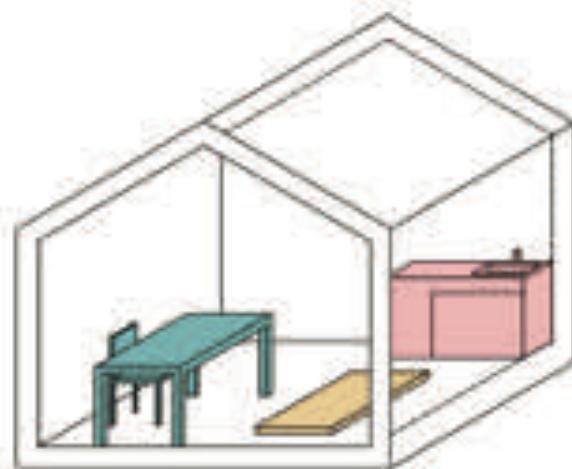
そこで私たちは歩道という場所を移動のための場所から、  
生活の延長として利用できる場所にするために、  
歩道にどっての家具となる「フレーム」を歩道に展開していく計画を考えました。

↓ 空っぽの部屋  
何をすればいいの...、



家であっても、  
何もなければ活動は困難です。

↓ 家具のある部屋  
椅子、机→食事、読書  
シンク → 料理  
布団 → 睡眠



家具があることで、  
様々な活動を可能にしていきます。

## 提案する「歩くしきけ」

歩道に活動のきっかけとなる「フレーム」を展開し、活動の場として道から生活の場となる道へと変換する。

ただ何かの目的のために歩くのではなく、歩道を生活の舞台とすること。

一過性のイベントによる歩くしきけではなく、  
生活に根付かせることによって、  
地域活動を視野に入れた計画を提案いたします。

# Element 設計したもの「フレーム」の使い方

ヨツの大きさのフレームのベースを用意しました。

形状を複雑にするのではなく、フレームに穴をあける、どっかかりをつける、  
置き方を変えるといった些細な操作によって、様々な活動のきっかけを  
歩道に計画していきます。



小さいフレーム  
(椅子。スツールサイズ)  
高さ: 300  
幅: 300  
奥行: 300



フレーム  
(ワゴンターサイズ)  
高さ: 500  
幅: 600  
奥行: 300



大きいフレーム  
(ちょっとした部屋サイズ)  
高さ: 1800  
幅: 1800  
奥行: 600

## 風と夜の役割

風



歩道に置かれたフレームは歩くのに疲れたら休むことができたり、  
中に入って涼んだり、雨から遮れることができます。

本を入れれば本棚になり小さな図書館に、  
採れた野菜を置けばどこにでも八百屋さんをつくることができます。

歩道は振やかな場所になり、地域住民の目が届きやすい安心できる場所となり、  
通学路として利用する子どもたちもその親御さんも安心できる場所となります。

夜



車や不審者、様々な不安要素を含む「夜の歩道」は  
子どもだけでなく、大人も怖い場所になってしまいます。

夕方を過ぎると、LEDを内蔵したフレームは夜道を照らし始めます。

フレームの光は道すじをつくり、地域住民を帰路へと導きます。

狭い路地でも小さなフレームを置いたり、  
広すぎる公園にも大きなフレームを置くことで必要な場所を適切に照らすことができます。 ⑨

# Pattern フレームの活用方法



## 【どこにでもお店】

フレームを背景にして、野菜を入れるかを置けば、必ずお隣の野菜屋さんになります。



## 【地域の交番】

看板や机、椅子などをじっくり見るための目的の休憩場所として大きいフレームを用意すると、そこは休憩の交番になります。



## 【みんなのお庭】

常に緑色でも、フレームにいる人を植物を置いておき、あるいは小さなフレーム看板を植え替えて季節に応じて色んな植物ができます。

## 【いろいろな遊び場】

フレームは少し複雑な遊び場に変身させることができます。半身水柱でハンモックやフレーム構造をつないで遊具を作ったり、小さなチームを導かれて迷路を作成するなどあります。



## 【小さな図書館】

読み終わった本やお読みの本をみんなで共有するフレームにすれば、フレームは小さな図書館になります。そばにある小さなフレームに横たわってその場で読んだり、読書道本を机の上に並べて置したりと、本を扱なさない人も調べます。



## Management フレームの運用方法

この計画では、設計者による一任ではなく、主導者、地元企業、地域住民といったその地に携わるすべての方によって計画、運営、利用を考えています。

「フレーム」の作成も地元の木工所や大工さんに依頼し作成、飲食店による軽食の屋台販売やぬかの方が作った屋台を販売することで、歩道での活動の種類を豊かにします。また、大学機関、行政主導によるワークショップを開催し、利用者である地域住民からの意見や設置場所の検討を行い、同時に「フレーム」のメンテナンスも行います。

# 計画のための登場人物

設計者の考えだけなく、それぞれが役割をもち、計画に携わることで、主体的に考える機会が生まれます。



# 利用イメージ

## 日常

- ①歩行時の休息場所** スツール、ベンチとしての利用
- ②趣味や余暇の延長** ガーデニング、読書空間、共有の庭としての利用
- ③商店のサテライト** 移動販売、地域野菜の販売所としての利用
- ④地域活動の拠点** 地域の見守り活動の拠点としての利用
- ⑤歩道の可視化** 夜間の帰路への誘導
- ⑥街灯の役割** 夜間の歩道の防犯

## イベント

- ①年数回のワークショップ** 利用方法の検討、追加設置場所の検討、追加地元建材屋さん、大工さんと共にメンテナンス
- ②地域、教育機関との連携** 生活、理科の授業利用  
授業経験

一過性のイベントではなく、地域に根付かせることで、歩道利用を促進し、次第にこの町ならではの景観を形成していきます。

# Story こんな生活になります。



□ -フレーム

● -どこにでもお店

● -地域の交番

● -みんなの図書

● -いろんな遊び場

● -小さな図書館

ティーサービスに違う  
おじいちゃん



普段に設置された  
フレームを休憩所  
にしながらのジュー  
ギングが日課。



娘と一緒に野暮で  
地域野暮を楽しみ  
ながら送り迎えを行  
う。



フレームに座って  
音楽や鳥を見るの  
が流行中。



元気な男の子と娘  
と一緒に読み、  
距離が縮まった。



フレームのお花や  
野菜を楽しむシゲ  
ルティーサービスに  
違う。

ご清聴ありがとうございました